

# 商店建築

'03-01

NO. 100

1993.10.10

発行  
株式会社建築センター

発行所  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

定価  
¥200



## コンパクトな都市緑化に向けた提案が目立った 「ジャパンガーデニングフェア for 2003」

写真・文/井上雅義

6回目を迎える園芸&エクステリア見本市「ジャパンガーデニングフェア for 2003」(主催: ガーデンを考える会)が2002年11月14日~16日の3日間、パシフィコ横浜で開催された。例年と比べると大型のエクステリアは減り、都市の小さな空間を意識したコンパクトなガーデンの傾向が強まっている。とりわけ、東京都などの補助制度で需要が伸びている屋上緑化関連の製品が目立った。まだ施工単価が割高な屋上緑化のコストダウンを実現する画期的な工法もあったが、植栽技術は建材ほど性能を数値化できないので実績を重ねる必要がある。

昨年はやったミニ盆栽など、ミニチュアガーデンは定着傾向だ。狭い室内に植物を取り入れる用品も都市空間を想定している。コンパクトな装置に流水を組み合わせるなど、園芸用品にもインテリア志向が見られ、デザインの多様性や演出力も高まった。人工的なプランターから、溶岩や天然石をイメージする鉢物へ変わり、よりナチュラルなガーデン・アイテムが提案されている。屋上や室内の栽培植物の種類が増えていることも特徴といえる。日本植木協会など生産者団体の出品も見応えがあった。数年来、鮮やかな花から樹木などグリーンへのシフトが見られるが、さらに樹種が増えている。小物類の和風デザインの傾向と重なる部分で、日本庭園を思わせる落葉樹、広葉樹、野草類が目玉を引く。

イングリッシュガーデンの色彩が濃かった6年前と隔世の感がある。時代を読むキーワードは「和風」「雑木林」「コンパクト」「ナチュラル」「都市空間」ではないだろうか?

出品、展示の中から、このキーワードに触れるアイテムを取りあげてみる。



- 1: 屋上など都市庭園のプレゼンテーション千葉県農業総合研究センター、いんばマット植物研究会の参考出品だが、多種類の植物をレイアウトして会場の雰囲気華を添えていた。ハイドロカルチャーなど都市緑化で実績豊富なプラネットの施工方法とグリーンコムジャパンの「ジグソーマット」を採用した。鮮やかなライトアップはプラネットの製品。
- 2: 常緑樹の薄層緑化のアイデア「ジグソーマット」  
マットなどに植物を植える「薄層緑化」は軽量で施工性がよいため、都市のヒートアイランド対策として注目されている。しかし、その種類は乾燥に強いセダム類に偏り

- がちだった。最近の研究によれば、セダムの葉は蒸散が少なくヒートアイランドの効果がないという報告がある。セダム類だけの緑化では、デザイン的な変化にもとほしい。「ジグソーマット」は、現在50種類の植物を用意し、近いうちに100種類程度まで増やしたいという。樹木から山野草まで種類も豊富で、樹木は針葉樹、低灌木など幅広い。従来のマット工法は、植物の根を繊維などのマットに植える方法だが、ジグソーマットは、植物の根そのものを絡ませてマット繊維の代わりにしている。この厚みは40mmと薄層だ。マットサイズ250mm角で、スポンジ状の水分調節基盤材の上に載せるだけで施工の手間がかからない。屋上やテラス、アプローチなど設置場所の自由度が高いのが魅力だ。「屋上緑化といっても、ヒートアイランド対策だけに偏らずに、見て楽しい庭園を造ることが目的」と同社では言う。重量も軽く、防水シートなどを含めて㎡あたり60kg以下に抑えてあり、既存ビルの屋上やテラスでも設置が可能だ。
- 3: FRP疑岩を「落水」する「ロックウォール ファウンテン」  
崖から染み出した水が岩肌を伝って落ち、池に溜まる一という演出だ。FRP成形の疑岩は水に濡れるとリアルに感じられる。W800mm、H1350mm、D100mmという

- サイズだが片手で持ち上げられる軽さ。落水も岩肌を滴る程度なので総水量は4~5ℓと少なく済み、ポンプも小型。池には、同様なFRP疑岩噴水(湧水)の「フローティング ロック ファウンテン」が浮かんでいる。いずれも参考出品で、2003年春の発売を予定している。
- 4: ゼオライトのミニ盆栽「ゼオミニオアシス」  
多孔質鉱石で土壌改良材としても実績があるゼオライトそのものを粉砕して固めた鉢に植物を植えた製品。身近な例では大谷石もゼオライト成分を多く含んでいる。消臭効果があり、多孔質に土壌バクテリアが生息しやすいため、人工土壌としても可能性が高い。この素材をミニポットにする着想が面白い。軟らかい石の質感を持ち、「なごみ」の室内にピッタリだ。
- 5: 信楽焼の質感が生きる湧水のガーデンファニチュア「逃げ水」  
黒鉄の船に見えるが陶器である。あえて金属風の釉薬を使ったそう。船をモチーフにした「逃げ水」は、L600mm、W250mm、H175mm、重量9kg。水は蓋の中央部から湧き出て循環する。内部に仕込まれた10Wハロゲン球による水中照明が効果的だ。蓋の甲板部分のコケは、ディスプレイ用。
- 6: 新しい造園樹木の提案  
(社)日本植木協会は、庭園樹木を総合的に調査研究する目的で1971年に設立された全国組織。92年に発足した同協会新樹種部会は「量的な緑から質的な緑へ」という新しいニーズに応じるため、造園樹木の開発・生産に取り組んでいる。この展示では、品種改良した樹種などで「花と樹形と葉色」の変化による景観を作り出していた。
- 7: スモールガーデンコンテスト「フリータイム空中庭園」  
デザイナー・小杉淳子 都会のルーフテラスを想定し、移動可能なコンテナを中心に構成した。象徴となる1本の樹木と多年草の小草類の対比で立体感のあるモダン庭園になっている。



製品問い合わせ: 1: プラネット (03) 5469-0590 2: グリーンコムジャパン (0476) 42-6855 3: タカショー (073) 487-0165 4: ミクニ (045) 832-6959 5: プラスガーデン (0748) 82-3366 6: 日本植木協会 新樹種部会 (03) 3586-7361 7: 東京園芸装飾専門学校 (03) 3473-6552